

www.jwing.net
mail@jwing.net

アメリカ特集2023



海外旅行需要が緩やかながらも復活するなか、アメリカ方面においても航空便の再開、またエンジェルス大谷選手の活躍でカリフォルニア州アナハイムへの旅行需要が伸びるなど、需要は着実に回復している。しかしながら新型コロナウイルスの影響で、社会が大きく変わり、それに伴い旅行スタイルも変化、これまでの旅行商品ではその変化したニーズに応えられなくなってきている。

これからは新しい切り口による旅行商品造成が求められており、まだまだ知られていないエリア、また現地での体験や交流を盛り込んだユニークな内容で、その変化したニーズに応えていく必要がある。多彩な魅力あふれるアメリカは、まだまだ知られていない魅力が数多く眠っている。こうした「隠れた魅力」を発掘し、これまでにない新しい旅行商品をいかに消費者に提案できるかが今後のアメリカ旅行市場のカギを握るといっても過言ではないだろう。

日米両政府は来年を「日米観光交流年」に設定、双方向で交流の気運が高まっている。日本からアメリカへの旅行需要を盛り上げるべく、いかに新しい切り口による旅行商品造成を進めていくのか、旅行会社の事例も紹介しながら、その可能性を探ってみたい。



画像提供:カリフォルニア観光局

今年人気を集めたカリフォルニア州アナハイム

アメリカの魅力を再発見する 新たな切り口による旅行商品造成の可能性

旅行形態の変化に合わせた商品展開 まだまだ知られていないエリアの 商品化へ

● ベルトラ株式会社

「今までパッケージツアーを利用してきたお客様たちがまだ戻ってきていない。旅行形態が変わり、自分自身で回りたいという人が増えている。こうした人たちは行動範囲が広く、ゲートウェイ都市から一歩進んで、まだまだ知られていない場所への需要が増えたと見ている。これからは、今までに注力できてない都市への需要を増やしていきたい」

そう語るのは、オンラインでさまざまな旅行商品を販売するベルトラ株式会社海外事業部北米エリアセールスマネージャーの赤瀬太一氏。実際に観光庁発表の「主要旅行業者の旅行取扱状況速報」(2023年7月)を見ると、海外旅行全体の総取扱額がコロナ前の2019年同月比で51.9%まで戻って

いるのに対し、「旅行商品ブランド(募集型企画旅行)」に限ると、わずか14.5%にしか達していない。

旅行会社別で見ても、2023年7月のJTBの商品別取扱額で海外旅行は2019年同月比で47.1%なのに対し、企画商品取扱人数(ルック)は13.6%。またエイチ・アイ・エスの2023年8月の海外旅行取扱高は、手配商品で80.6%、企画商品で54.6%と、いずれもパッケージツアーの戻りは全体的な海外旅行需要と比べ、戻りが遅い。

夏休みはファミリー層の戻りが顕著 貸切チャーター観光の需要伸びる

一方、ベルトラのアメリカ方面の売上額は「コロナ前と比べ6割程度」(赤瀬氏)に推移。特に夏以降の回復が顕著だという。同社の海外旅行商品で人気なのがアジアとハワイ。アメリカは、ヨーロッパと共にそれらに次ぐシェアを誇る。

アメリカ方面の客層を見ると、多いのがファミリー層。特に「夏休みは増加した。お盆の時期には3~4名、二世帯、グループも見られた」とのこと。また年齢層が上がっており、円安の影響で旅行代金が上がっていることから、「学生が減り、代わりにお金や時間に余裕のある層が増えてき

ている」傾向にある。

コロナ前との違いとしては、「貸切チャーター観光」の需要が増加。国立公園のツアーも人気だ。また西海岸の人気も高まり、なかでも好調だったのがカリフォルニア州アナハイム。「これまでも商品はあったが、今年はロサンゼルスエリアの旅行商品の中で、野球観戦や送迎、空港送迎など、アナハイム関連の商品が売り上げ上位を占めている」という。

まだ知られていないエリアの商品開発 「定番」との組み合わせも

ベルトラでは、今後こうした個人旅行の層へ向けたアプローチをさらに強化していく方針。赤瀬氏は「パーツごとに購入して頂けるような商品ラインナップを強化していきたい」と意欲を見せる。なかでも注目するのが前述の通り、日本人になじみの薄いエリアの商品開発だ。

「今年7月のブランドUSAのセールスミッションでさまざまな州の観光局より、国立公園や他にはない特徴を持った景色や生態系の紹介があった。こうした素材を発掘し、見せ方を工夫すれば、まだまだ日本人にアピールできるのではないかと期待を寄せる。

一方で「“ザ・アメリカ”と言える定番もお客様からの引きが強い」ことから、こうした定番素材との組み合わせによる提案も検討していく。



ベルトラのウェブサイト。さまざまな旅行商品を取り扱う
www.veltora.com/jp

「発信の仕方が重要」

コラボレーションで訴求、
情報収集も重要

まだあまり知られていないアメリカの旅行素材をどう消費者に紹介していくのか？赤瀬氏は「発信の仕方が重要。事前にインターネットで調べても、こうした旅行素材は当然、最初に出てくることはない。こちらが主体となって発信する必要がある」と答える。

なかでも重視するのがコラボレーション。パートナーである現地サプライヤー、またユニークなところではアメリカ国内の州や都市と姉妹関係のある日本の自治体、DMOと連携、訴求していくことで旅行需要の促進につなげていく。

もちろん情報収集も必要。なかでも観光局との関係構築、また「IPW」といったトラベルトレードショーへの参加も重要との認識を示す。

「まずはパッケージで販売」

収益面でも期待

若い子連れファミリー層をターゲットに

収益の面でも期待がかかる。ベルトラにとって、アメリカは「単価の高い」方面。「他の方面ではアクティビティー単発の予約だけだったりするが、アメリカ方面では宿泊や送迎、ツアーなどが売れる」（赤瀬氏）という。

「日本人になじみの薄いエリアは、どう旅行すれば良いのか、まだ分からないことが多い。最初はパッケージスタイルの商品など、ケアの手厚い商品を優先的に投入できれば」とのこと。もちろんこうした商品は収益性が高い。

具体的な例として挙げたのが、南部ルイジアナ州のニューオリンズ。アメリカのなかでも他とは違ったユニークな歴史や文化を体験できる都市であり、グルメも大きな魅力のひとつ。「例えば、レストラン巡りや料理体験といった体験型の素材を目指したい」と考えた。

また、ターゲットとして据えるのが子供連れの若いファミリー層。「親も子供もそれぞれ楽しめる商品を出していきたい」と意欲を見せる。



ニューオリンズはグルメも魅力

旅行会社ならではの商品造成を

新しい旅行商品が生ま出す
双方向交流

新しい切り口による旅行商品の造成は、アメリカへの旅行需要促進に向けた大きな契機となる。旅行会社でこれまで培ってき

たノウハウを活かし、プロの視点によるより魅力的な訴求ができれば、新たなブーム、潮流を生み出すこともできるはずだ。ソーシャルメディアを使った効果的な露出も消費者へ発信していく上でも重要な施策のひとつとなる。もちろん情報収集も重要。旅行会社発の新たな商品造成で、ぜひ日米間の双方向交流を盛り上げていきたい。

USA Topics

ブランドUSAの 販促アイデアコンテスト「ゴールド・ラッシュ」 ベルトラがグランプリ獲得

アメリカ合衆国の公式観光促進団体であるブランドUSAは、9月28日に「ゴールド・ラッシュ:ブランドUSAマーケティング・チャレンジ」のグランプリ決定戦を東京で開催した。日本の旅行会社を対象に、アメリカへの旅行商品を対象とした画期的な販促プランのキャンペーンを募集したコンテストで、ブランドUSA本局のスタッフに加え、日本旅行業協会（JATA）および地球の歩き方の代表者など、計4名の審査員による慎重な審査の結果、ベルトラ株式会社がグランプリを獲得、ブランドUSAは提案販促プランを実現する資金として現金1000万円を贈呈した。



ベルトラがグランプリを獲得
左からJATA海外旅行推進部副部長高田祥司氏
地球の歩き方アドバイザー兼ビジットUSAコミティージャパン副会長奥健氏
ベルトラ海外事業部北米エリアセールスマネージャーの赤瀬太一氏
ブランドUSAグローバルトレード開発ディレクター（アジア太平洋地区）
スージー・シェパード氏、同日本地区ディレクター早瀬陽一氏

ベルトラは、「Rediscovering America」と題した革新的な販促プランで、パートナーである現地サプライヤーや、アメリカ国内の州や都市と姉妹都市関係を有する日本の自治体、DMO（観光地域づくり法人）と連携、アメリカ各地のまだあまり知られていない地域と魅力を訴求し、旅行促進に繋げていくことを提案した。

特にブランドUSAが注力する、まだあまり知られていない地域での体験が盛り込まれたことで、5つの審査基準（創造性、実現可能性、持続可能性、期待されるROI（投資利益率）、ブランドUSAのマーケティング目標との親和性）において高い評価を獲得、グランプリ受賞につながった。

また、学生部門では、ホスピタリティツーリズム専門学校観光科の岩田貴子氏によるシニア向けのマーケティング・プラン「人生も旅もコッカラ～アメリカで花をめぐろう！咲かせよう！～」が優勝、ブランドUSAは賞金10万円を贈呈した。こちらは60代以上をターゲットに、州の花や旬の花を見に行く旅行を提案。全50州すべてをカバーできる地理的な広がり、また全国の植物園や花屋で販促するアイデアが高い評価を得た。

2024年を「日米観光交流年」に 日米双方向交流を強力に推進

観光庁は、アメリカからの訪日観光と消費拡大の推進、および日米双方向の観光交流拡大を目的に、9月20日にニューヨークで「訪日観光レセプション」を開催。レセプションでは「これまでにない体験」をテーマに、日本の観光の魅力についてプレゼンテーションが行われたほか、斉藤鉄夫国土交通大臣から2024年を「日米観光交流年」とすることを発表。日米双方の観光交流拡大を集中的かつ強力で推進していくとした。高橋一郎観光庁長官もレセプションの開催にあわせて訪米し、米商務省のビール旅行・観光担当次官補代理と会談を行い、「交流年を活用して、インバウンド・アウトバウンド双方向の交流を一層拡大していくことで認識を共有した」と述べた。



画像提供:観光庁
レセプションで挨拶する斉藤国土交通大臣

羽田-ホノルル線、運航開始

羽田から米国へ、充実のネットワーク

デルタ航空は10月29日(羽田発)より、羽田-ホノルル線の運航を開始する。同社の東京発フライトは、すべて利便性の高い羽田空港の発着。ホノルル線の就航により、羽田から米国6都市へノンストップ便を運航、ビジネスにもレジャーにも使える充実のネットワークを誇る。



羽田からホノルルへ毎日運航 利用しやすいスケジュール



羽田-ホノルル線の運航機材 (ボーイング767-300ER 型機)

デルタ航空の羽田-ホノルル線は、毎日の運航。使用機材はボーイング767-300ER型機で、「デルタ・ワン(ビジネスクラス)」25席、「デルタ・プレミアムセレクト(プレミアムエコノミークラス)」18席、「デルタ・コンフォートプラス」21席、「メインキャビン」151席の仕様。

利用しやすいスケジュールも大きな特徴。羽田を夜に出発するので、仕事を終えて、アクセスの良い羽田空港からハワイへ行くことができる。またホノルルの出発時間は午後なので、出発の朝はゆっくりと過ごせるのがうれしい。

羽田(HND)-ホノルル(HNL)線 運航スケジュール(2023年10月29日から)

便名	出発地	出発時間	到着地	到着時間	運航日
DL180	羽田	21:00	ホノルル	08:55	毎日
DL181	ホノルル	14:00	羽田	18:45(翌日)	毎日

※運航スケジュールは予告なく変更になる場合があります



ホノルル線にも！ 「デルタ・プレミアムセレクト」

羽田-ホノルル線には、新たに「デルタ・プレミアムセレクト」が登場する。プレミアムエコノミークラスとして、既に羽田-米国本土路線で好評を集めており、広いスペース(シートピッチ最大38インチ/約96.5cm)に深いリクライニング、可動式レッグレストとフットレストも備えた快適なシートに、チェックインや搭乗、保安検査場(一部空港)、手荷物取り扱いなど、「スカイブライオリティ」の各種優先サービスを受けることができる。



すべてのフライトを 利便性の高い羽田空港に集約

デルタ航空の東京発着フライトは、すべて都心からのアクセスが至便な羽田空港を利用。成田から羽田へ移転後初就航となるホノルル線に加え、米国本土5都市へフライトを運航、北米各地だけでなく、中米、カリブ海、南米各地へスムーズに乗り継ぐことができる。

また羽田から米国本土へのフライトには、最新鋭のエアバスA350-900型機やA330-900neo型機を投入、快適性を追求した質の高いプロダクト、サービスを提供する。



羽田空港「デルタ スカイクラブ」開設1周年 米国航空会社で唯一の自社ラウンジ



羽田空港の「デルタ スカイクラブ」は、米国の航空会社で唯一の自社ラウンジとして2022年にオープン。総座席数230席、延床面積867㎡の広々とした空間で、作り立ての食事が味わえるビュッフェコーナーや目の前で調理するヌードルバー、フルサービスのバーカウンター、シャワールーム(5室)、ワークブースなど設備が充実。ほぼ全座席に電源を備え、高速Wi-Fiで出発前のオンライン会議など、ビジネス対応も万全だ。

デルタ航空公式 日本語Instagram開設



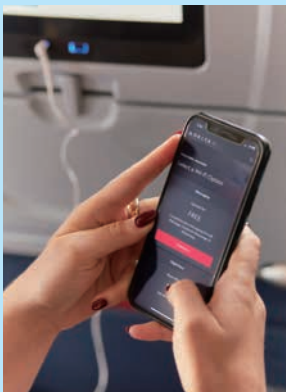
Facebook
[@DeltaJP](#)



Instagram
[@deltaairlines_jp](#)

Facebookに加え、日本語公式Instagramもスタート。アメリカ各地の魅力や最新の機内サービス、キャンペーン情報など、スペシャルなコンテンツを提供。ぜひフォローを!

米国国内線の Wi-Fi接続が無料に!



米国の主要航空会社としては初となる高速Wi-Fiの無料提供を今年2月に開始。マイレージプログラム「デルタ スカイマイル」の会員であればすべての乗客が無料で利用できる(その場で会員登録が可能)。地上同様、機内でもストレスなく高速Wi-Fiが利用できる画期的なサービスだ。2024年末までにはすべての国際線やリージョナル航空機にも導入予定。

ロサンゼルス国際空港の 改装プロジェクトが完了



デルタ航空のフライトが発着するターミナル2と3の改装プロジェクトが完了。国際線ターミナルに接続し、徒歩移動が可能になったほか「デルタ・ワン」専用チェックイン・エリアがグレードアップ(写真)。

また「デルタ スカイクラブ」は、100席増設、飛行機を見渡せる屋外エリアを設けた。

SDGsに配慮した 機内サービスを提供



デルタ航空は、自然環境や社会活動、経済活動など、持続可能なSDGsに向けたさまざまな取り組みを行っている。機内アメニティもそのひとつ。「デルタ・ワン」と「デルタ・プレミアムセレクト」のアメニティ・キットに伝統的な手工芸の職人を支えるブランドを採用(写真)。

プラスチックを使わず、環境にやさしい天然素材を取り入れている。さらにリサイクルポリエステル製の寝具、生分解性素材を使った食器や竹製のカトラリー、アルミ缶のワインなど、大規模なプラスチック削減に取り組んでいる。

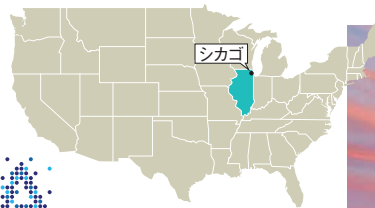
サービス内容は予告なく変更になる場合があります。



堀米雄斗選手とともに
デルタ航空でアメリカへテイクオフ!



KEEP CLIMBING
 DELTA 



CHICAGO

CHOOSE CHICAGO

USA

GoUSA.jp

アメリカ中西部に位置するイリノイ州最大の都市シカゴ。コンデナスト・トラベラー社の「リーダーズチョイス賞」で「No.1のベスト大都市」賞に7年連続で選出されるなど、アメリカ人も好印象を持つ都市だ。アメリカ人が「最もアメリカらしさを感じられる街」と表現するように、シカゴには古き良きアメリカを感じられる建築物や、現代アメリカを代表するミレニアム・パークの「ザ・ビーン」など、新旧アメリカが見事に融合した雰囲気を楽しめる。



新旧アメリカが見事に融合した「最もアメリカらしいアメリカ」の街シカゴ

建築・芸術・音楽・グルメが集まる7年連続米国No.1選出の大都市

Architecture

世界の近代建築の始まりの地

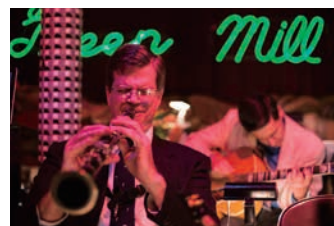
シカゴ＝摩天楼というイメージを持つ人は多い。1871年に起きた「シカゴの大火」後の復興計画と産業の発展を背景に、シカゴ派と呼ばれる近代建築家たちがこぞって鉄骨造の高層ビルを設計した。また、日本の旧帝国ホテル本館を設計したフランク・ロイド・ライトが手掛けた建築物もシカゴに点在している。世界最大の屋外彫刻「ザ・ビーン」のあるミレニアム・パークを起点に歩きながら建築物を巡るのもよいが、シカゴの歴史を学びながら建築物を紹介してくれるリバークルーズに参加するのがおすすめ。



Music

多彩な音楽文化を誇るシカゴ

シカゴの文化を語るうえで欠かせない要素が多彩な音楽だ。シカゴは世界最大のブルースフェスティバルが開催されるブルースのメッカ。1947年に建設された歴史あるシカゴのジャズの聖地「ジャズ・ショーケース」では、上質なジャズセッションを楽しめる。公園など街の至る所ではフリーコンサートが行われるほど、シカゴ市民にとって音楽は身近な存在だ。世界最高のオーケストラの1つと評価される「シカゴ交響楽団」の本拠地でもあり、クラシック音楽も根付いている。



Gourmet

シカゴで独自の発展を遂げたグルメ

シカゴには独自の発展を遂げたグルメが多い。代表格はシカゴドッグやシカゴ風ピザだ。特に有名なのがディープディッシュピザ。深い焼き皿で焼くため生地の縁が高く、生地を容器のようにして大量のチーズとトマトソースが載せられている。一方で、ミシュランの三つ星を獲得する「アリア」のように、記念日などで利用したくなる高級レストランもある。こういった食のバリエーションの豊かさが、シカゴグルメの大きな魅力の1つと言える。



Museum

ミュージアム巡りで楽しむシカゴ

「シカゴ美術館」は、メトロポリタン美術館とボストン美術館とともにアメリカ三大美術館の1つに数えられ、印象派のコレクション数はフランス以外では世界最多を誇る。自然史博物館の「フィールド博物館」では、ティラノサウルスの世界最大級の化石標本を見学できる。アメリカ人にも人気の「レッド水族館」は、1930年に開業したことから建物は歴史的建造物として登録されているが、展示は4Dシアターなど最先端技術を駆使している。



大阪市との姉妹都市提携50周年

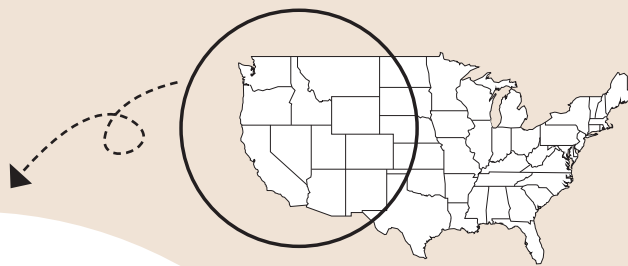
今年はシカゴと大阪市が姉妹都市提携50周年という節目の年だ。7月30日には大阪市の横山市長ら代表団がシカゴを訪問し、シカゴ市のジョンソン市長らとともに両市の50年にわたる繁栄を祝い、絆をさらに深めることに合意する共同宣言書に署名した。

四大スポーツがそろふシカゴ

シカゴは四大プロスポーツを観戦するのにぴったりの街だ。メジャーリーグのカブスとホワイトソックス、バスケットボールのブルズ、アメリカンフットボールのベアーズ、アイスホッケーのブラックホークスがシカゴを本拠地としており、毎年熱戦を繰り広げている。

画像提供:シカゴ観光局

WING Travel Weekly USA Special 2023



アメリカの魅力を発見!

各州・各地域のおすすめ旅行体験

広大で多彩な文化、歴史、自然景観が広がるアメリカ。
東から西、北から南、まだまだ知られていないエリアや体験がたくさんある。
各州や地域の観光局が推薦する
旅行造成にもぜひ取り入れたい新しい切り口で楽しめるおすすめ旅行体験をご紹介します。

ビジット・シアトル

visitseattle.org

スペースニードルの新展望台

新展望台は足元から天井までガラス張り。障害物のない状態で地上158mからの眺めが楽しめ、インスタ映えスポットとして連日賑わっている。展望台のアップパーデッキにはATMOSカフェ、ATMOSワインバーがオープン、充実したドリンクを楽しみながら絶景を楽しむことができる。



visitseattle.org/seattle-localist/play/the-new-needle/

モンタナ州政府駐日代表事務所

www.bigskyjapan.com

冬のイエローストーン国立公園

冬のイエローストーン国立公園をスノーコーチや、スノーモービルで観光。夏と違い、駐車場待ちの渋滞もなく、ゆっくりじっくり大地の営みを見ることができる。出発は、西口にあるウエスト・イエローストーンから。多くのガイド付きツアーを提供している。



©Visit Montana

www.visitmt.com/things-to-do/winter-activities/snowcoach-tours

オレゴン州観光局

www.gousa.jp/state/oregon

オレゴンの旅は、オレゴンのエキスパートとともに！

オレゴン州を旅するには、オレゴンのエキスパートである地元ガイドによるツアー参加がおすすめ。サイクリング、ワインテイスティング、スノーシュー、星空観測など、オレゴンで最もクールな体験を、オレゴニアガイドがお手伝い！



©Christian Heeb

traveloregon.com/travel-oregon-with-travel-oregon/

ポートランド観光協会

www.travelportland.com/ja

アップサイクル&DIY体験

ポートランド産のお酒を飲みながらDIYを楽しめる「DIY Bar」では、15種類以上あるDIYクラフトのための材料とツールから作りたいものをチョイスしてお土産を作ることができ、手を動かしてものをつくる楽しさを感じられる。



©Travel Portland

www.travelportland.com/ja/maker-spaces

サンフランシスコ観光協会／サンフランシスコ国際空港

jp.sftravel.com

ますます進化する美食都市

2023年度版ミシュランガイドでは、カリフォルニア州で星を獲得した87軒のうち半数以上の50軒がサンフランシスコ・ベイエリアに集中。また、サステナビリティへの取り組みが評価されたミシュラン・グリーン・スターも新たに獲得し、世界的な美食の街として存在感を増している。



©Hardy Wilson

www.sftravel.com/article/guide-to-san-franciscos-michelin-starred-restaurants

ロサンゼルス観光局

www.discoverlosangeles.com/jp

設置100周年を迎えたハリウッドサインまでハイキング

今年、設置100周年を迎えたハリウッドサイン。グリフィスパークからハリウッドサインまでハイキングを楽しむのはいかが？ 間近から眺めるハリウッドサイン、さらには眼下に広がるロサンゼルス市の街並みは絶景！



Courtesy of Los Angeles Tourism and the Hollywood Chamber of Commerce. Photo: Yuri Hasegawa

bit.ly/48ALPji

サンディエゴ観光局

www.sandiego.org/plan/international-travelers/japan.aspx

サンディエゴ・パドレス「ペトコ・パークツアー」

アメリカNo.1の球場を探検しよう！「サンディエゴ・パドレス」の本拠地ペトコ・パークでは毎日球場見学ツアーを開催。通常は選手やスタッフしか入れない舞台裏をのぞいたり、球場やサンディエゴ・パドレスの歴史を学んだりできる。日本人ガイドによるプライベートツアーもアレンジ可能。



©Matt Thomas/San Diego Padres

www.mlb.com/padres/ballpark/tours/daily

カリフォルニア観光局

www.visitcalifornia.com/jp

グレーター・パームスプリングスでレッドジープ・ツアー

レッドジープに乗り込みサンアンドレアス断層を探検！迷路のような渓谷を駆け抜け、ナチュラルスト・ガイドによる砂漠の動物、植物、地質学、歴史に触れながら、地球のパワーと壮大な景観をぜひ体感したい。



©Visit California/David Collier

www.red-jeep.com

ブランドUSA

www.gousa.jp

アリゾナ州レッドロック州立公園

レッドロック州立公園には、ウェス・アンダーソン監督の最新作「アステロイド・シティ」のインスピレーションとなった広大な砂漠があり、砂漠をハイキングし、真っ青な空に映える乾燥地帯ののどかな景色を堪能できる。



©Arizona Office of Tourism

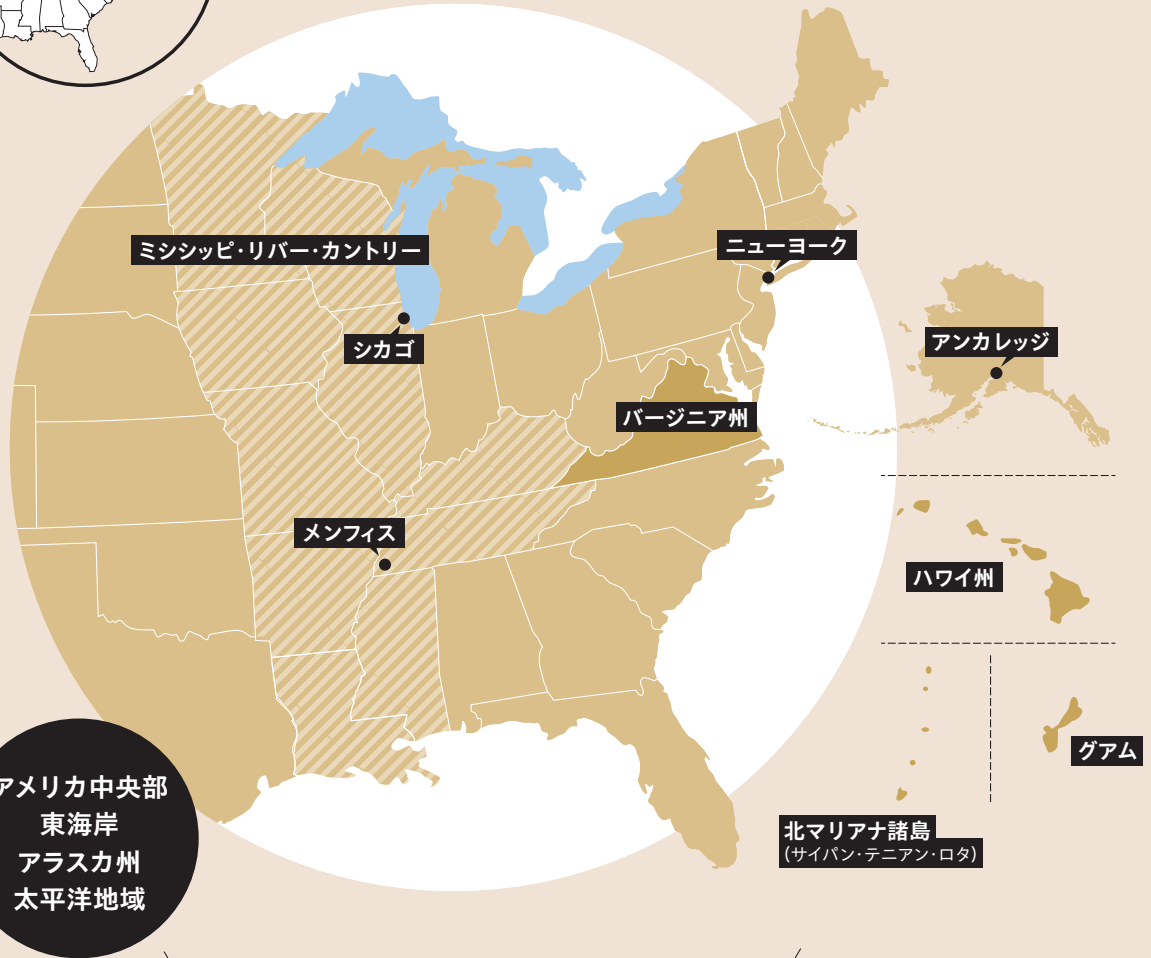
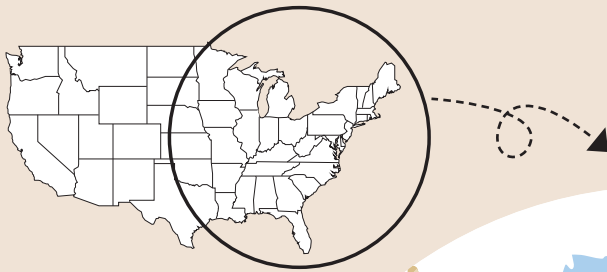
azstateparks.com/red-rock

\\ アメリカの魅力を発見! //

各州・各地域のおすすめ旅行体験

アメリカ中央部・東海岸・アラスカ州・太平洋地域

次のページに続く



アメリカの魅力を発見!

各州・各地域のおすすめ旅行体験

広大で多彩な文化、歴史、自然景観が広がるアメリカ。

東から西、北から南、まだまだ知られていないエリアや体験がたくさんある。

各州や地域の観光局が推薦する

旅行造成にもぜひ取り入れたい新しい切り口で楽しめるおすすめ旅行体験をご紹介します。

シカゴ観光局

WWW.CHOOSCHICAGO.COM

シカゴ建築センター (CAC) リバークルーズ

CACのボランティアの案内でシカゴ川を下る建築リバークルーズ。2023年夏から日本語を含む音声ガイドアプリが登場。川沿いに建つ50以上の建造物にまつわるエピソードや、100年足らずで大都市に成長した経緯など、シカゴの建築と歴史を知ることができる人気アトラクション。



www.architecture.org/tours/detail/chicago-architecture-center-river-cruise-aboard-chicago-s-first-lady

ニューヨーク市観光会議局

www.nyctourism.com

ニューヨーク市にホリデーシーズン到来

ニューヨーク市では感謝祭から年末年始までが最も賑わうシーズン。ニューヨーク市の冬の名物とも言える、屋外スケートリンクやホリデーデコレーション。そして、大晦日の盛大なカウントダウン「ボール・ドロップ」など、煌びやかなイベントが目白押し。



ミシシッピ・リバー・カントリーUSA

mrcusa.jp

ミシシッピリバー・クルーズ

アメリカの文化や歴史を体験するにはミシシッピリバー・クルーズがおすすめ。アメリカの南北に流れるミシシッピ川を、好みの日数や地域別にクルージングしながら寄港地を巡りたい。



バージニア観光局

www.virginia.org/plan-your-trip/international-visitors/japan

ルーレイ洞窟

州北部のシェナンドー渓谷にあるアメリカ東海岸最大の鍾乳洞。石灰石の結晶は、この世のものとは思えないほど美しく神秘的。高さ約14mの石柱、煌めく巨大カーテン、地底湖に映る無数の鍾乳石の鏡像、鍾乳石が奏でる音色など、4億年の年月が造り出す自然の神秘は圧巻。

luraycaverns.com



©Luray Caverns

メンフィス市観光局

www.memphistravel.com/japanese

ミシシッピ川のカヌー

メンフィスの自然探訪には是非、ミシシッピ川のカヌーツアーを体験してみてもいい？ミシシッピリバー・エクスペディションでは、一生の思い出となるようなミシシッピ川のカヌー体験を、プロのガイドのもと提供している。

www.canoememphis.com/



©Alex Shansky_Memphis Travel

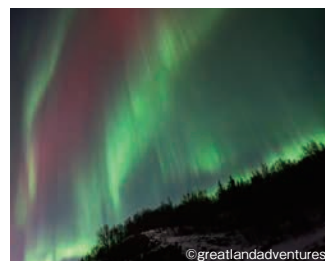
アンカレジ観光局

www.anchorage.net

オーロラを求めて オーロラ・ハントツアー

オーロラ観測の必須条件は晴れていて、空が暗いこと。アンカレジの明るい街中を離れ、オーロラの活動状況と、空がクリアな場所をリアルタイムでチェックし、最適な場所へ案内するツアーが大人気。オーロラ活動が活発な今年、是非アラスカでオーロラ体験を！

www.anchorage.net/winter/things-to-do/northern-lights-viewing



©greatlandadventures

ハワイ州観光局

<https://www.allhawaii.jp/>

Beautiful Hawai'i ～旅は、世界を美しくできる～

ハワイの豊かな自然や特有の文化は、日常の中で忘れかけた地球の美しさや人々の優しさに気づかせてくれる。旅行を楽しみながらその土地の恵みに感謝し、旅先の文化や習慣を敬う、そんな旅をぜひハワイで体験してみたいかだろうか。



画像提供: ハワイ州観光局

グアム政府観光局

www.visitguam.jp

3時間半で気軽に行ける「アメリカinアジア」

グアムはアジアにあるアメリカ。日本から飛行機でわずか3時間半! 島内は観光スポットがコンパクトに集まっているので、ビーチアクティビティ、グルメ、ショッピング、ホテルステイなど「やりたいこと」が手軽に体験できる。施設も充実。レジャーでも団体旅行でも数日で満喫できるのも強みだ。



©グアム政府観光局

マリアナ政府観光局

japan.mymarianas.com

第16回サイパンマラソン

4年ぶりに海外からの参加者を招いてのサイパンマラソンが2024年3月9日(土)に開催。時差1時間、直行便でわずか3時間半のサイパンは、海外マラソン初心者にも走りやすくおすすめ。5km、10km、ハーフ、フルマラソンから自分に合った距離で是非チャレンジ!

japan.mymarianas.com/saipanmarathon



WING Travel Weekly USA Special 2023

魅力あふれるカリフォルニア

3つの切り口から新しい旅のスタイルを提案

明るい太陽と美しいビーチ、そして誰もがワクワクする体験が待っているカリフォルニア。日本から数多くのフライトが飛び、アクセスしやすいのも魅力だ。今、カリフォルニアで注目したいのが、グルメ、スポーツ、ウェルネス&サステナビリティの3つ。この3つの魅力を切り口に、新しいカリフォルニアの旅の可能性が広がる。

visit
California

カリフォルニア観光局
visitcalifornia.com/jp

今、注目のカリフォルニア 3つの魅力

Gourmet

01

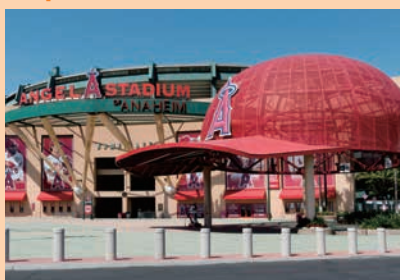


グルメ

新鮮な食材やここだけのワイン、地産地消、ミシュラン星付きレストランの美食も

Sports

02



スポーツ

本場のスポーツ観戦はもちろん、雄大な自然の中で自分でも気軽にチャレンジ!

Wellness & Sustainability

03



ウェルネス&サステナビリティ

美しい自然にリラックスし、開放的な空間でマインドセット、持続可能な取り組みに触れる

Gourmet グルメ

バラエティーに富んだ、今どきの食のシーンを体感

カリフォルニアのグルメの魅力と言えば、そのバラエティーの豊かさにある。食材は多彩で、その土地の新鮮な食材を使った「Farm to Table(地産地消)」は、カリフォルニアだからこそ、ぜひ味わってみたいグルメ体験のひとつ。

またミシュランの星付きレストランがアメリカの州の中で最も多く、今や「美食の州」としても知られる。世界各国の食が味わえるのも魅力。カリフォルニアロールといった、ユニークな発想から生まれたカリフォルニア発祥の料理も数多い。

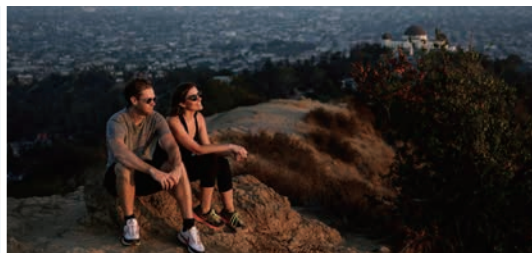
世界的に人気のワインも外せない。ナパバレーやソノマダだけでなく、州の各地で質の高いワインが造られている。ワイントレーンやレトロなフォルクスワーゲン・バス、トローリーなど、現地発のワインツアーに参加して楽しむのがおすすめ。またクラフトビール、クラフトジンなどにも注目が集まっており、そのレベルは高い。

他にも地元のスーパーやファーマーズマーケットで、栄養価の高いカリフォルニア産のナッツをお土産にしたり、オーガニック食材を探したり、またフードトラック(屋台)で新しい料理に出会ったり、料理教室に挑戦したり、カリフォルニアの今どきの食のシーンを体感してみたい。



Sports スポーツ

プロスポーツのメッカ、スポーツがライフスタイルの一部に



カリフォルニアは、スポーツの楽しみ方も実に多彩。多くのプロチームが本拠地を構えており、野球（MLB）、バスケットボール（NBA）、アメリカンフットボール（NFL）、アイスホッケー（NHL）など、本場の試合観戦は、忘れられない思い出となるはず。オフシーズンでもスタジアムツアーで熱戦の現場を間近にできる。

サーフィンやスケートボード、ロッククライミングなど、カリフォルニアは「聖地」として、世界中から多くの愛好者たちが集まる。スキーやスノーボードなど、ウィンタースポーツも人気。マラソン、トライアスロン、自転車レースなどのスポーツイベントに挑戦するのも旅のひとつの目的となる。

スポーツがライフスタイルの一部としてア

クティブに楽しめるのもカリフォルニアならではの。大都市のすぐ近くに美しい大自然が広がり、ウォーキングやハイキングなど、旅行者でも気軽に体験できる。

また今後、2026年のFIFAワールドカップ、2028年のオリンピックとパラリンピックの開催地として、ますます世界中の注目を集めることになるだろう。

Wellness & Sustainability ウェルネス&サステナビリティ

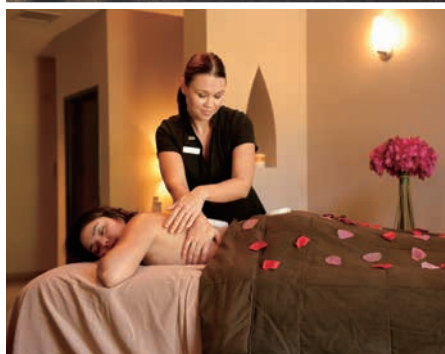
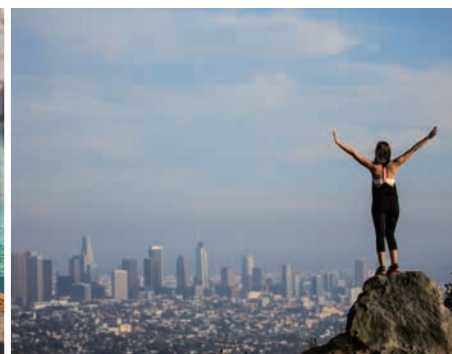
美しい自然環境が生み出すここだけの体験、新しい自分に出会う旅を

ビーチや緑深い森林、砂漠や山岳地帯といったバラエティーあふれる自然が広がるカリフォルニア。そんな美しい自然があるからこそ、ビーチヨガや森林浴、瞑想体験など、真のウェルネス体験が待っている。心身ともにリラックスして、豊かな自然を丸ごと感じてみたい。

ほかにも、ラグジュアリーなホテルやリゾートでの極上のスパ体験、自然に囲まれた本格的なリトリートでの滞在は、世界中のセレブたちに人気。また、先住民が大切にしてきた天然の温泉に浸かれれば、日ごろのストレスから解放され、癒されるだけでなく、体調改善にもつながる。

サステナビリティへの意識も高い。エコリズムが浸透し、持続可能な取り組みを進める宿泊施設も数多い。サステナビリティは、カリフォルニアの人たちのライフスタイルに息づいている。

こうしたウェルネス体験やサステナビリティな取り組みに触れることで、旅を通じて新しい自分と向き合うことができ、さらに未来を考えるきっかけとなるだろう。

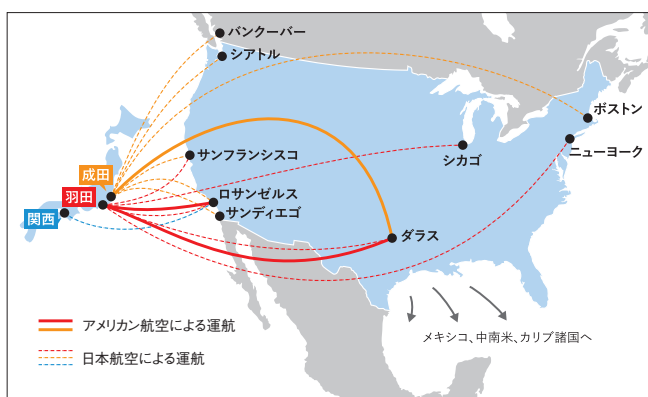


画像提供:カリフォルニア観光局

日本からアメリカへ 利便性の高いネットワークを提供



ロサンゼルスとダラスへ、毎日4便
北米はじめ250都市以上へアクセス



アメリカン航空は、日本からロサンゼルスとダラス・フォートワースへ毎日4便運航。両空港を經由して北米をはじめ、中南米の250を超える都市にアクセスできるのが強みだ。また日本航空とのパートナーシップにより、シカゴ、ボストン、ニューヨーク、サンフランシスコ、シアトル、サンディエゴ、バンクーバーへの直行便も利用できる。

目的地や時間帯など、 ニーズに合ったフライトを選択

そのため、フライトの選択肢は豊富。行きたいエリア、出発したい時間帯に合わせてフライトを選ぶことができる。多彩なフライトコンビネーションで、お客様のニーズに応える。

アメリカン航空のマイレージプログラム 「AAdvantage®プログラム」



AAdvantage®プログラムに入会すると、アメリカン航空や共同事業パートナーである日本航空、また1000以上の提携パートナーの利用でマイルの加算が可能。貯めたマイルは、アメリカン航空や日本航空をはじめとする提携パートナー航空会社の特典航空券などに利用できる。

個室感覚の新ビジネスクラスが登場 「Flagship Suite®」2024年より導入予定

アメリカン航空の日本発着路線は、現在「Flagship®ビジネス」「プレミアムエコノミー」「メインキャビン」の3クラスで運航。全座席から通路へアクセスできるFlagship®ビジネス、専用の機内食やアメニティキットを用意したプレミアムエコノミー、多彩な映画やTV番組などが楽しめるメインキャビンなど、すべてのクラスにおいて快適で質の高いサービスを提供する。また2024年よりビジネスクラスを刷新、「Flagship Suite® (フラッグシップスイート)」(写真)を順次導入する予定。各シートにプライバシードアを搭載した個室スタイルで、本物のプレミアム体験が待っている。



ハブ空港ニューヨークJFKに新ラウンジ 日本航空フライトとの乗り継ぎ利便性アップ

アメリカン航空のハブ空港のひとつ、ジョン・F・ケネディ国際空港(ニューヨーク)の「ターミナル8」に3つの空港ラウンジが新たにオープン。同ターミナルには、2023年5月からパートナーである日本航空のフライトも発着、羽田とニューヨークを結ぶ日本航空のフライトから、北米や中南米各地へのアメリカン航空のフライトへの乗り継ぎの利便性が格段に向上した。



日本からアメリカへ 充実のネットワークと快適なサービス



羽田—ニューヨーク線に導入予定のAIRBUS A350-1000

羽田と成田、関西から全米各地へ運航

JAL北米線は、羽田、成田だけでなく、関西からも運航。国内線で日本各地から乗り継げるほか、パートナーであるアメリカン航空のネットワークで、北米はもちろん、中南米へもスムーズにアクセスできる。

方面	発着地	便名	運航日
シカゴ	羽田	JL010/JL009	毎日運航
		JL012/JL011	毎日運航
ダラス・フォートワース	羽田	JL7014 (AA176) / JL7013 (AA175)	毎日運航
	成田	JL7012 (AA60) / JL7011 (AA61)	毎日運航
ボストン	成田	JL008/JL007	毎日運航
ニューヨーク	羽田	JL004/JL003	毎日運航
		JL006/JL005	毎日運航
サンフランシスコ	羽田	JL002/JL001	毎日運航
	成田	JL058/JL057	毎日運航
ロサンゼルス	羽田	JL016/JL015	毎日運航
		JL7016 (AA170) / JL7015 (AA169)	毎日運航
		JL7018 (AA026) / JL7017 (AA027)	毎日運航
	成田	JL062/JL061	毎日運航
	関西	JL060/JL069	月・水・木・土・日(10/29、11/5は運休)
シアトル	成田	JL068/JL067	毎日運航
サンディエゴ	成田	JL066/JL065	火・水・金・日
バンクーバー	成田	JL018/JL017	毎日運航

※スケジュールは予告なしに変更になる場合があります

AIRBUS A350-1000 羽田—ニューヨーク線に就航

AIRBUS A350-1000型機は年内に羽田—ニューヨーク線に就航。まずは羽田—ニューヨーク線から投入する予定だ。お客さまひとりひとりに合わせた快適な空間で、JALの新しい空の旅がはじまる。

ここがポイント

ファーストクラス (6席)



- 扉付き個室座席
- ソファ、シート&シングルベッド、ダブルベッド*の3種モードをお好みで選択可能
- 世界で初めてヘッドフォン不要のヘッドレスト内蔵スピーカーを導入。ベッドモードでも快適に視聴ができるヘッドレストのリクライニング機能も装着
- 個室内に設けたワードローブ・手荷物収納スペースによるストレスフリーな環境

*座席を全てベッドモードにした状態

ビジネスクラス (54席)



- 扉付き個室座席
- 長さが約198cmになるベッドモード。ヘッドレストのリクライニング機能で寝ながら快適に機内エンターテインメントが視聴可能
- 世界で初めてヘッドフォン不要のヘッドレスト内蔵スピーカーを導入
- 個室内に設けたワードローブ・手荷物収納スペースによるストレスフリーな環境

プレミアムエコノミークラス (24席)



- 新規に大型プライバシーパーティションを設置
- 世界で初めて、プレミアムエコノミークラスでリクライニング機能

エコノミークラス (155席)

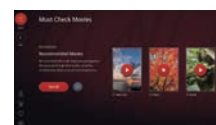


- 足元ひろびる、「ベスト・エコノミークラス・エアラインシート*」の快適性を継承
- 従来比で約1.3倍サイズの13インチ4K大画面モニター設置

*英SKYTRAX社「ベスト・エコノミークラス・エアラインシート」6期連続受賞

機内エンターテインメント

全クラスに4Kモニター搭載、Bluetooth接続で手持ちのワイヤレスヘッドホンから楽しめる



事前にJALアプリで映画や音楽のお気に入りリストを作成し、機内で簡単に再生できる(2024年春〜)。15言語に対応、視覚サポートも

American 



JAPAN
AIRLINES



アメリカへのフライト。 選択肢が多いほうがいい。

アメリカン航空と日本航空をご利用いただくと、アジアとアメリカ間のご旅行がよりいっそう便利です。

日本航空は、現在、日本発北米路線（シカゴ、ダラス・フォートワース、ボストン、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シアトル、サンディエゴ、バンクーバー）を好評運航中。2社のパートナーシップにより、北米、カナダ、メキシコの250以上の都市に就航しております。アメリカン航空と日本航空のご利用ならばマイルの獲得や交換、ラウンジのご利用、優先搭乗が可能。シームレスな旅行体験をお楽しみください。

パートナーシップの強みを活かした多彩なフライトオプションで、北米はもちろん、その先の中南米へも、スムーズで便利な旅を。

※上記は2023年10月1日現在の情報です。スケジュールは予告なく変更となる場合があります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

aa.com

www.jal.co.jp

